

## 教育・施設の今後のあり方

幼  
小  
中

# 一貫教育の実施に向けて

清川にひとつの 清川らしい幼・小・中が、  
一体となった新しい一貫校をつくりあげる



平成三十年度から、学校のあり方「研究会」、「検討会」を立ち上げ、保護者、PTA、自治会長、学識経験者などの多くの皆さんから意見を募り、学校の将来の教育について調査、研究を重ね検討してきました。

この検討結果を受けて、「総合教育会議」で今後の学校のあり方について方針決定をしました。

### 学校のあり方研究会

幼稚園、小学校、中学校に通う児童・生徒の保護者の代表者から構成。委員数…7名

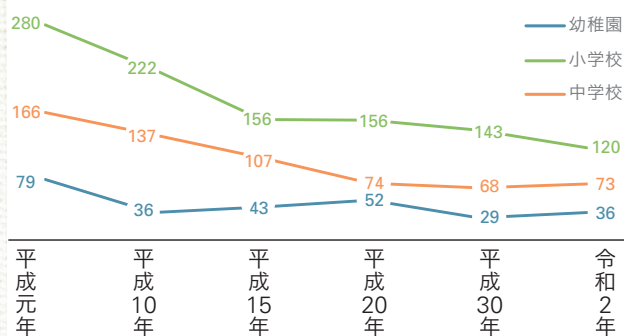
### 学校のあり方検討会

小・中学校PTA代表者、自治会長代表者、学識経験者、公募委員から構成。委員数…7名

### 総合教育会議

重要な教育施策などについて、村長と教育委員会（教育委員5名）が協議・調整する会議体。

表1 園児・児童・生徒数の推移



出典(村住民基本台帳)

表2 学校施設の状況

| 施設名      | 棟名称    | 経過年数(年) |
|----------|--------|---------|
| 緑小学校     | 校舎東棟   | 47      |
|          | 校舎東棟増築 | 38      |
|          | 校舎西棟   | 38      |
|          | 屋内運動場  | 37      |
| 宮ヶ瀬小学校   | 校舎     | 34      |
| 緑中学校     | 校舎     | 43      |
|          | 校舎新館   | 30      |
|          | 屋内運動場  | 36      |
| 宮ヶ瀬中学校   | 校舎     | 34      |
|          | 屋内運動場  | 34      |
| 学校給食センター | 給食センター | 31      |
| 清川幼稚園    | 園舎     | 32      |
|          | 遊戯室    | 32      |

令和2年11月1日現在

## 背景

## 園児・児童・生徒数の減少と施設の老朽化

全国的な少子化の波は、村にも例外なく押し寄せています。村の幼稚園・小・中学校の園児・児童・生徒数は減少傾向にあり、平成元年には525人いた子どもたちの数が、令和2年には229人と半分以下まで減少。今後も緩やかに減少していく見込みです。(表1)

一方で、校舎や給食センターなど、6施設13棟ある学校施設も、完成から40年以上経過した校舎が2棟あり、他の校舎も老朽化が進

んでいます。校舎を建て替えるのか、改修工事などにより長寿命化を図るのか、いずれにしても多額の費用が必要となります。(表2)

こうした背景を踏まえ、今後の学校規模の適正化や充実した教育環境の整備を図るため、また、これからの時代にふさわしい教育のもと、村の子どもたちを育てていくために、必要な検討を行ってき

## 方針

## こどもファーストでつくる12年間の一貫教育

学校をめぐる問題について「学校のあり方研究会」「学校のあり方検討会」で調査研究を重ね、「同一施設の一貫校を新設するのが望ましい」との結論に至りました。

また、同研究会・検討会の提言を受け、今年7月に行われた総合教育会議で協議した結果、一貫校は「これからの時代にふさわしい教育施設」であり、「学びやすい一貫した系統的な教育課程のもと、清川の子どもたちを育てることができ」とのことから「清川にひとつの 清川らしい幼・小・中が一体となった新しい一貫校をつくりあげる」との方針を決定しました。

## コンセプト

美しい山々に囲まれ豊かな自然あふれる村。人々の昔からの素朴さや温かい人柄の地域、地域の皆さんがお互いの顔を知り、支え合う暮らしがそこにあります。村でも少子高齢化や核家族化が急速に進んでいます。だからこそ教育による人づくりが地域の衰退を押しとどめる役割を果たすと考えます。ふるさとを守り支える気概を持つ

人づくりのため、こどもファーストで「幼・小・中12年間の一貫教育」のできる環境整備を目指します。

## 清川カリキュラム

村が理想とする「一貫校」は、幼稚園から中学校までの教育課程を調整し、12年間継続して系統的な教育・学習に取り組む「一貫教育」にあります。

教育課程に一貫性を持たせることで、学力の確実な定着、社会性や自己意識、規範意識の育成、問題行動防止などといった子どもたちの「生きる力」を育成する新たな「清川カリキュラム」の導入を研究・検討します。

## 今後の進め方

一貫校・一貫教育の目的や特色については、現時点では方針が決まった段階であり、今後も継続して研究を重ね、課題などを精査する必要があります。

引き続き、保護者や教職員、地域の皆さんのご意見を広くお聞きし、共に検討しながら丁寧に進めていきます。

問 学校教育課 ☎(288)1215